

■■■ 新年あけましておめでとうございます ■■■

セヘ ポク マ〜ニ パドウセヨ。(新年たくさんの福をうけとってください)

新年おめでとうございます。今年がKFCを支えてくれているみなさんにとって良い年になることを心から願います。

昨年は、東日本大震災被災者への支援、またKFCが新しい事業をはじめするための準備で大忙しの1年でした。そのなかで本当にたくさんの人から勇気をもらい、壁を乗り越え、新しい道へとKFCが進むことができました。心から感謝いたします。

今年は、播いた種が、芽を出し、豊かな実がなる1年になるよう理事長として全力を尽くしますのでひきつづき温かい力をお貸しねがえればと思います。

新しい年、たくさんの方との楽しい出会いとすばらしい“えん”が結べることを期待して新年のあいさつとさせていただきます。

(理事長 金 宣吉)

皆様、明けましておめでとうございます。

セヘ ポク マ〜ニ パドウセヨ。

KFCの皆さん、新年明けましておめでとうございます。

東北の被災地の皆さんには、耐え難い厳しさの中で年の明けを迎える事となり、思いを寄せること以外に言葉もありませんが。

KFCにとって、新たな「グループホーム」建設という大きなチャレンジの年となります。

マイノリティ高齢者の居場所として育てて行かなければならないと思います。

皆様のご健勝ご多幸をお祈り致します。

(副理事長 李 圭 燮)

昨年は3.11東北大震災で大きな被害を受け、津波、原発事故が続き途方もない災難に見舞われました。その後の政府の対応は先送りばかりで、国民の中には閉塞感が漂っています。こんな中で新しい動きも芽生えていますが、乗っていいのかどうかよく見極める必要があります。いま、日本だけでなく世界中が大きな転機に差し掛かっています。この世界の動きに眼を開き間違いのない方向を見極める必要があるのではないのでしょうか。

私たちが経験したように震災から日が経つにつれ震災が忘れられる傾向がありますが、私達はいつまでも被災者のことを忘れず、10年も20年も見守り、支援を続けたいものです。原発の放射能は100年も続くと言われます。被災者が元の住まいに戻るまで長期にわたって見守ってゆきたいものです。

今年も良い年になりますよう英知を寄せ合い、ねばり強く着実に前進するようみんなで頑張りましょう。

(副理事長 中村 通宏)

定住外国人子ども奨学金のためのチャリティコンサートも、いよいよ三回目を迎えます。つくづく、子どもは「社会の」宝だなあと感じます。出自や文化的背景に関わり無く、この社会に〈自分の居場所〉があると感じられ、社会を構成する一員として支え合える「多様な仲間」を一

人でも増やす種まきを、今年も一緒に続けていきましょう！

(理事 野崎 志帆)

「人間にとっては、生き続けているということ、それだけでも充分素晴らしいことだと思います」。今年も昨年同様、そう思います。震災で多くの方が理不尽な死を強いられたことを考えると、今こうして「ごあいさつ」の文章を考えることができること自体、たいへんな幸せだと思います。これからもよろしくお願い申し上げます。

(理事 樋口 大祐)

昨年は3. 11の東北大震災があり、被災者の方々の復興支援策が進まない中、景気の一層の悪化で生活が脅かされている深刻な事態が一層拡大しています。このような中で外国人労働者の切り捨てが行われ、外国人の人権が脅かされる事態が増えることが懸念されます。定住外国人の権利擁護のためにも、KFCの活動が重要になってくる年と思います。今年もよろしく申し上げます。(理事 吉井 正明)

■■■KFC日本語プロジェクト■■■

◆KFC11月研修会「ベトナム人を理解する」

11月12日(土)に、『ベトナム人を理解する』をテーマに研修会が行われました。講師として大阪大学文学研究科招へい研究員の川越道子先生をお迎えし、在日ベトナム人の現状・歴史的背景・日本での暮らし(特に長田区での)・これからの課題(共に生きる社会)についてお話いただきました。

講演後の、質疑応答では川越先生は「先生と呼ばないで」と謙遜され、和やかな雰囲気の中、出席者の小・中学校の先生や、KFCで日本語学習を支援している人たちとの、真剣な話し合いが持たれました。特にベトナム人児童を担当されている小学校の先生方は、現実的な悩みや問題点について質問され、適切なアドバイスをいただきました。子どもに対しては大きな問題はないようですが、その保護者の方たちとの対話や、重要な新学期に突然2ヶ月間も帰国してしまう問題など文化の違いだけでは解決できない問題もあり、先生方はかなりを熱心に質問され、川越先生の経験や現地での実際の体験談などを交えてとても分かり易くご説明いただきました。

年々増加するベトナム人定住者は2006年の統計では、3万1千人以上が日本に住んでおり、その内訳は神奈川県がトップ、その次は愛知県、兵庫県の順になっています。愛知県は自動車産業への研修生が多く定住したという特殊な事情があります。兵庫県の場合は姫路市に難民支援施設として姫路定住促進センターがあるため、姫路・加古川・明石・神戸・尼崎のように仕事があるところに多くのベトナム人が定住することになりました。神戸市に定住しているベトナム人のうち、なんと56%(約800人)の方が長田区で暮らしています。

その歴史的な背景は戦争と長田区で発達した産業によるものです。1940年代の第一次インドシナ戦争の後、1954年のジュネーブ協定で北(社会主義)と南(民主主義)に分断され(南北分離独立)、そのことが原因となり、1960年代から10年以上もの間ベトナム戦争の苦難を受けることとなります。このため、南ベトナム政府関係者や軍人がボートピープルとして在住し、その後1970年代には中越関係緊張で中国国境に近い人々が、また1980年代には北部出身者の国外脱出がありました。このようにベトナムの方々には色々な事情と背景のなかで、日本にやってきました。

これらの人々が神戸の長田区に多く定住したのは、産業の集積(マッチ産業・ゴム産業)があったこと、また職住住宅の密集地域になったことによります。特にケミカルシューズ産業の細分化された生産工程では単純作業が必要とされ、その労働力として在日ベトナム人を吸収してきまし

た。そしてケミカルシューズ業界は1980年～90年に掛けて最盛期を迎えることとなります。ところが、徐々に下降傾向であった日本経済、その追い討ちを掛けるように阪神大震災の大打撃を受けました。それに加えケミカルシューズ産業の変化（単純作業は海外の安価な労働力に取って代わられる）や機械化のため、解雇や会社自体の倒産などがありました。

このため、必要とされる労働者は、その質の変化を求められ、単純作業ではさほど必要でなかった高い日本語能力が必要になってきました。このため長田区に住むベトナム人の方々は依然として不安定な生活を余儀なくされています。

在日ベトナム人の方々は増加の一途と辿り、以前よくいわれた『ニューカマー』から『ニューニューカマー』と呼ばれる2世・3世の方々が多く在住することになり、この人たちへの早急な対応の必要性を感じさせられました。（堀田 信二）

◆KFC会員向け「生活日本語実践法講座」

12月17日（土）にKFC事務所でKFC会員向け「生活日本語実践法講座」が開講された。10時から3時半までの長い時間であったが、24名の参加者があり、講師の松本さん、中野さんの熱のこもった説明・模擬授業と参加者との質疑応答で非常に有意義な講座でした。

「生活日本語」は、従来の「文型積み上げ」方式とは異なり、生活者としての外国人が最低限身につけておく必要がある日本語を短期間で習得するために、“こういうことを言いたい”ために“この表現が必要”というコミュニケーションの目的から出発しています。

また、教室のスタイルとして、マンツーマンレッスンともグループレッスンとも異なるFSG（仮称）という方式の紹介があった。つまり、F：ファシリテーター（授業の構成・進行・フィードバックを行う）とS：スタッフ（学習者1人～数人に1人付き、ファシリテーターの指示を基に学習者がクラスについていけるよう支援を行う）とG：学習者の構成となっている。ファシリテーターがまず説明を行い、その後、スタッフと学習者がいくつかのグループを作り、スタッフが学習者に対し学習支援を行い、ファシリテーターは各グループを回り、適切なアドバイスを与えていくというものである。当然、クラスが始まる前にファシリテーターとスタッフの綿密な打合せが必要である。毎回、テーマを決めて、そのテーマを達成するためにどんな語彙やフレーズが必要か、最低限どんな知識が必要かの指導が行われます。

今回は、模擬授業として、ファシリテーター・ボランティア・学習者に分かれて、「買い物」の薬を買うというタスクを実践した。まず、身体の部位・病気の症状の語彙の理解、“～んですが”の使い方、薬屋での対話、薬の用法・用量の理解という内容でした。現在、実際に行われている4か所のクラスの内日本滞在の長い学習者の北区クラスの様子、日本滞在歴の短い学習者のKICCクラスの授業の様子や学習者の様子、良かった点・反省点等の報告もありました。生活日本語のテーマとしては、現在、①知り合う（自己紹介）、②／③買物、④／⑤目的地への往復、⑥電話・待ち合わせ、⑦銀行・郵便局、⑧事故・犯罪・主張、⑨災害・防災、⑩病院へ行く、⑪ごみ・家庭生活、⑫学校 の12課が準備されている。1課が2時間の授業で、どの課から始めることもできます。

教材としては、上記テーマのテキスト、参考資料、教え方の手引きがセットとなりました。まだ完成品ではないが、8月からの短期間でここまでのものにもってきたKFC日本語スタッフの大変な努力には敬意を表します。

このテキスト作り等は神戸市の委託事業であり、テキストとして公になるのは4月で、神戸市のホームページから直接ダウンロードができることとなっています。KFCから生まれたこの生活日本語実践法を今後KFC会員全体で育てていきたいと思っております。

◆KFC12月研修会「在日外国人児童の読書の会」と「おはなし会」での読み聞かせについて

2011年12月10日(土)のKFC研修会は、この記事の題目「読み聞かせについて」という講演でした。講師は、神戸市立新長田図書館の小田原典子館長です。館長は図書館司書の資格を大学で取得され、須磨図書館などを経て2009年から新長田図書館へいらっしゃいました。講演概要は次の通りでした。

「在日外国人児童の読書の会」は、毎週一回、新長田図書館多目的ルームで、神戸市在住の外国人小学生児童を対象に、絵本の読み聞かせや日本文化の紹介をするという活動で、KFCからもスタッフ・ボランティアを派遣しています。参加する子どもを増やすため、2011年度からは対象を4歳以上の子どもとその保護者にまで広げ、日時も土曜日の午前中という親子で参加しやすい時間帯に変えて実施しています。さらに、小学校などへ出向いてする「出張読書の会」も最近始めました。「おはなしの会」・「えほんの会」での「読み聞かせ」が目指す事柄は、四つあります。

- 1.本に親しむ心を育てる。
- 2.豊かな心を育てる。
- 3.本を読む基礎を作る。
- 4.本を選ぶ力を育てる。

絵本の選び方で注意することは、子どもの発達(年齢)に応じた素材を選ぶこと、四季を感じさせてくれる絵本を選ぶこと、昔話絵本を選ぶこと、などがあります。

絵本の読み方で注意することは、二つあります。

- 1.何度も繰り返して読んであげる。
- 2.読み手が感じたイメージを押しつけない。誇張して読むのは聞き手の集中力を読み手に集めることはあっても、話の内容に集めることにはならないからです。

「読み聞かせ」で大切なこと、それは、読み手が楽しいと思うことです。

(質疑に対し)「読み聞かせ」では、わからないかもしれない単語の説明をあえてすることはしないとのことでした。

この講演会場へは、実際の読み聞かせに使われている絵本のなかから二、三十冊を持ち込んでくださり、その中から「くんちゃんシリーズ」などを読み聞かせして下さったので、「読み聞かせ」を実感させていただけました。

最後に館長は、グリムの「おいしいおかゆ」というお話をきれいな標準語アクセントでしてくださいました。これは読み聞かせではなく、「ストーリー・テリング」というのだそうです。

質疑に応答されてから講演の幕を閉じられました。 (ニュース係 操田 誠)

■■■KFC外国にルーツを持つ子どもの学習支援■■■

◆外国人にルーツを持つ子どもへ～挑戦し続けることをあきらめないで

時間は早いものだとよく言われています。KFCで外国人子どもへの教育に関わらせていただいてからもう三年目になりました。三年間は、留学生生活の三分の一になりました。留学生として日本で身につけた知識を外国人の子どもへの教育において活かして、本当によかったと思っています。この活動を通じて、自分にとっても勉強できたと思っています。

KFCで勉強している外国人の子どもは、日本人の子どもと違ったそれぞれの家庭事情があります。多くの場合は家庭で両親から勉強を手伝ってもらえません。日本語は外国語で、学校での知識の取得には彼らは自分自身でどんなに頑張っているのか、想像ができるのではないかと思います。

す。そんな大変な状況にもかかわらず、やはり子どもだからこそできることではないでしょうか。勉強に対して、積極的に取り組んでいる姿は大人である私も勉強すべきだと思っています。彼/彼女ら、それぞれ自分の夢を持っています。そして、彼/彼女らは夢を実現するための最も有効な手段は学問だと考えているようです。そして、夢に向けて、一步一步ずつ歩いています。

学校での勉強が終わったら、すぐにKFCに来る子が多いので、多少に疲れたと顔に現れていますが、少し休憩してから、再び真面目に勉強に取り組んでいます。現在、主に中学生3人を担当させてもらっています。授業では生徒はどれくらい理解しているのか、毎回不安を抱きました。KFCでの勉強時間は、私が担当しているのは週に約二時間しかないのですが、教えられることは限られています。しかし、彼/彼女らは努力で徐々に学校での生活、授業に慣れていきます。そして、テストの成績を貰った時、私にも見せてくれ、科目の点数の高低について、一緒に語り合います。何より、自分の努力（徹夜で単語の意味を調べていた）で高い成績が表われた時、ワクワクした表情で語ってくれました。また、「教えてもらった日本語で友達と会話できて楽しかった」と言ってくれた子もいます。その瞬間にこの活動の意味を深く感じました。ここで自分は何ができるのか、自分しかできないことは何にか、またできないことに対してどのように解決するのか生徒との関わり合いで理解できるようになりました。

中学生と違って、活発に活動する小学生がたくさんいます。KFCでの授業に参加したことがあれば、その活発な雰囲気を感じると同時にどこからそのパワーがあるかと驚いたでしょう。これらのすべては、KFCならではの雰囲気だと思い、とても好きです。

皆さんも知っているように子どもの心と体の成長は、自分の力が必要ですが、それだけでは足りません。家庭、学校の先生、地域の住民の方の支えは不可欠です。特に外国人子どもも、将来日本社会のメンバーとして堂々と生きるために、外国人子どもへの教育にさらに力を入れるべきではないでしょうか。外国人として、この場を借りてKFCの皆様やボランティアの先生方、応援してくださる方々に心から感謝しております。本当にありがとうございます。

最後に、願いとして多くの外国人の子どもたちは自分の夢を持って、実現するまでにあきらめず挑戦し続けてほしいです。皆さんを応援してくれる人々がたくさんあるからです。これも是非分かっしてほしいです。（レ ファン バオ カン）

■■■ KFC中国帰国者支援事業 ■■■

◆生活支援を目的の日本語教室 新長田の勤労市民センターの三階で月2回、火曜日の午後行われている中国帰国者対象の「生活支援を目的の日本語教室」を見学しました。

指導しているのは二人の若いKFCスタッフです。念入りに計画された教案を分かりやすく教えるために絵カードやプリントを用意しています。助手をしているのは、KFCの日本語支援者の他に、シルバーカレッジ出身の男性が参加して、常時、五、六人います。学習者は毎回20人ほどです。

この日は体の部位を覚えるのと、薬局へ薬を買いに行く練習をしました。まず、先生の一人が人体の絵を指し、もう一人の先生は自分の体のその部分を指し、頭、目、耳、鼻、口と順番に発音し、学習者はリピートします。次に体の一つの部位を指し、その名前を答えてもらいます。我先に答えることもあります。次にはスタッフの一人の男性が正面に立ち、学習者は配られた部位が書かれているカードをセロテープで貼り付けます。皆、笑いながら楽しそうにやっていました。

次は体の部位にトラブルがあった時、薬局へ薬を買いに行く時の練習です。店員になる役とお客になる役を交代でやります。

「いらっしゃいませ。」「頭が痛いんです。薬を下さい。」「これはどうですか。一日に三回。食事の後に飲みます。一回に二錠飲むんです。」「わかりました。それにします。」二人一組になってこのような会話を練習するのです。その時、助手は一組か、二組のグループを受け持って、一緒に練習します。あとでわかったのですが、帰国者たちは薬は病院でもらい、薬局へはほとんど行かないようです。でもいつかはこの練習が役に立つと思います。

一時間近くたった時、休憩です。十分間ほどですが、その間に中国語で雑談をしています。最後に体の部位の名を入れた替え歌を「頭、肩、ひざ、ポン！ひざ、ポン！ひざ、ポン！頭、肩、ひざポン！目、耳、鼻、口」という単語を「ロンドン橋落ちた」のメロディで合唱して、この日は終わりました。

出席者のある人は教室には来ますが、先ず将棋をします。時間になっても将棋を指しながら時々正面を見ていた人が、回を追うごとに最初から授業を受ける態勢になってきました。またこういう講座にはありがちな段々出席者が減っていく現象がないようです。ということはこの講座が、帰国者たちに喜ばれている証拠だと思えます。指導者の先生、助手の人たち自信を持って頑張ってもらいたいと思えました。

(ニュース係 気賀 倭文子)

紅白太極拳大会

中国帰国者交流会で太極拳を始めてはや半年が過ぎました。11月22日の紅白太極拳大会では神戸地区の白組と明石地区の紅組に分かれて披露しましたが、紅白いずれも大変上手に演武ができました。半年でここまで見事に演武ができたことに私達スタッフもびっくりするやら、嬉しいやら。

これも皆さん毎回熱心に練習してこられた賜物と思えます。また来春には全体を通した演武で更に充実した交流会になるよう頑張っていきましょう。(秋山・鶴田)

■■■ ハナの会 ■■■

◆今年『国際交流』で取り組んだクリスマス会

11月の末、「そろそろクリスマスの企画をしないとイケないわねえ」と平和な会話を交わしていたのに、あっと言う間に、時は12月9日に。この時には、すでにクリスマスの日程は12月19日(月)、20日(火)と決まっていた。

13日の職場会議で、今年のクリスマスの企画を論議しました。今年のテーマは『国際交流』で行くことを確認。スタッフが国際的(中国人、ベトナム人、ペルー人、内モンゴル人)であることを強みにし、それを生かそうというものでした。スタッフはハワイアンに挑戦することになりました。

知り合いが講習をしてくれることになり、14日の夕方から、ハワイアンの練習を始めました。リズムがつかめない。覚えられない。ある日はスタッフだけ残って練習もしました。衣装は、色付きのビニールで腰ミノを作り、色紙でレイを作りました。

19日はベトナム人のアンさんの司会で始まりました。サンタクロースの服をパット脱ぐと、アオザイ姿のアンさんに変身。彼女は澄んだ声で歌を披露。そしてモンゴルの民族衣装をまとったフツデルゲルさんの登場。堂々とした姿でモンゴルの歌を披露。

20日は鮑さんが司会担当。澄子さんのペルーダンスでオープニング。激しい南米のリズムに、利用者さんも参加。次はボランティアによる津軽三味線の音と声。

『芸のためなら女房も泣かす』の歌ではないが、『デイのためなら、すべてを投げる』の精神

で両日スタッフはハワイアンを披露しました。ものにはなりませんでしたが、反対に利用者さんからのやんやの喝さいをもらいました。20日に勤務したばかりの岡村さん、数日前から調理で働き始めた趙さんの参加は私たちに勇気とデイサービスハナの会に未来を感じさせてくれました。

「利用者さんが喜んでくれるなら」何もいとわないという、若いスタッフの意気込みのクリスマス会でした。（管理者 山根 香代子）

■■■ 今後の予定 ■■■

■ KFC15周年記念のつどい

2月5日（日） 15:30～17:00

■ 研修会 「日本語教育と国語教育の違い」

3月12日（土） 13:30～15:30

窪井千鶴子（日本語教師）

於 アスタくにつか4番館東棟3F

■ 日本語Pお弁当ミーティング

1月25日（水） 12:00～

於 KFC事務所

■ 小学校入学前の子どものためのながたプレスクール

1月21日（土）～3月17日（土） 10:30～12:00

於 KFC事務所

■ 出張読書の会

1月17日（火）、2月21日（火） 13:00～

於 駒ヶ林小学校

■ 「日本語で住む！」～生活日本語を教える実践法講座

1月21日（土）～3月3日（土） 13:30～16:00

於 アスタくにつか4号館 3F